愛媛県立松山中央高等学校　図書委員会　　令和７年6月５日発行

図書館だより　6月

六月を奇麗な風の吹くことよ　　正岡子規

６月に入り、雨が降る日が多くなってきました。雨が降ると、自転車での登下校が少し憂鬱になってしまいますね。けれども雨の日には、晴れの日とはまた違った趣があります。恵みの雨を受けた花や木々の緑の美しさはこの時期しか味わえません。「奇麗な風」と表現した正岡子規もこんな風景を目にしたのではないでしょうか。何とも言えないみずみずしさや透明感が感じられますね。鬱陶しい雨の季節かもしれませんが、みなさんの心にも爽やかな風が吹きますように。

読書冊数調査（4･5月）

先日1･2年生対象で読書冊数調査を実施しました。
図書委員会では「年間読書冊数１人あたり10冊以上」を目標にしています。今回が初めての調査でしたが、結果は下記のようになりました。

1 年　2.0 冊　　2 年　1.4 冊　　全校　1.7 冊

１年生はいいペースで取り組めています。２年生には「0冊」という人もいましたが、朝の読書の時間にきちんと読んでいますか？ 1か月に1冊を目安に取り組んでいきましょう。また7月に調査を実施しますので、読んだ本はセントラルガイダンスに記録しておきましょう。協力よろしくお願いします。

図書委員会からのお願い！　返却は返却ボックスへ！

本を返却する時は、返却ボックスに入れてください。
自分で書棚に戻さないようにお願いします。図書委員がいる場合は図書委員に渡してください。本が行方不明にならないように！

NEWS　読書感想文にいかがでしょう？

1･2年生は夏季休業中の課題として読書感想文が出されます。
5月号では課題図書の紹介をしました。文豪の名作はもちろんですが、他にも読んでほしい本がたくさんあります。比較的新しい本を中心に紹介してみます。

『ぼくが生きてる、ふたつの世界』 五十嵐　大：著

課題図書『「コーダ」のぼくが見る世界』の五十嵐大氏の作品。映画化もされました。内容が課題図書と重なる部分もありますが、障がいのある両親のもとに生まれた、健常者の著者の葛藤がより細やかに描かれています。世間や無知の持つ怖さ、優生保護法についても考えてみるといいと思います。

『働きたくないイタチと言葉が分かるロボット』 川添　愛：著

「言葉って何？」「分かるってどういうこと？」
人工知能について考えることが、最終的には人間を考えることにつながっていきます。専門的な内容も、寓話＋解説でわかりやすく書かれています。理系の人はもちろん、文系の人にもおすすめです。
なぜ主人公が「イタチ」なのかも、考えてみてください。
花松あゆみ氏の挿画もとてもかわいらしく魅力的です。

「ブロードキャスト」 湊　かなえ：著

「イヤミス（読んだ後イヤな気持ちになるミステリー）の女王」として知られる湊かなえ氏。しかしこの本は、その要素を封印した高校生が主人公の青春小説です。陸上を諦めた主人公が、放送部に入部。夢と友情、嫉妬や後悔、大人への反発……青春の葛藤がリアルに描かれています。部活動を頑張っている人は共感できると思います。

『やさしい猫』 中島　京子：著

現在も解決していませんが、出入国在留管理局の収容所で適切な治療が受けられず亡くなった女性のことが、社会的問題として大きく取り上げられました。日本で暮らす外国人は年々増加しています。しかし、日本の入管制度等には様々な問題があり、外国人との共生を実現するには大きな壁となっています。本音と建て前、マジョリティとマイノリティの問題も提起しています。NHK でドラマ化もされました。やさしい語り口ですが、厳しいテーマが描かれています。